

正負の数 ② 加法 (たし算)

中学1年生・数学 / 第1章 正負の数 / 難易度：標準

今日のポイント

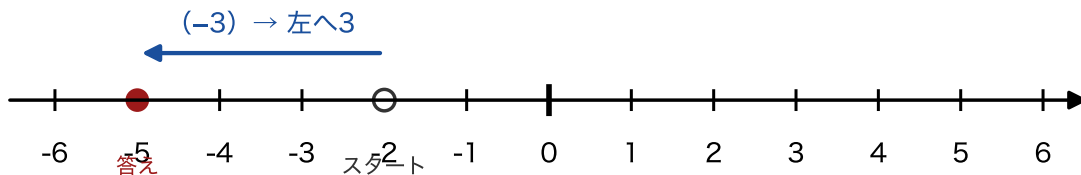
1. 加法と「和」

たし算のこと。その答えを和という。正負の数では「符号」をどうするかがカギ。

2. 同符号 (+どうし・-どうし) の和

→ 符号はそのまま、絶対値をたす。

- $(+3)+(+5)=+8$ • $(-3)+(-5)=-8$

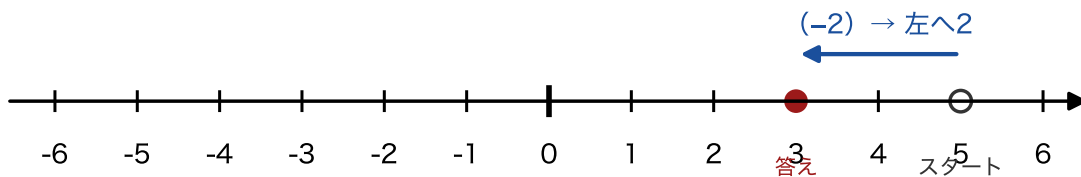


$(-2)+(-3)$: -2 から左へ3 → -5

3. 異符号 (+と-) の和

→ 絶対値の大きいほうの符号をつけ、絶対値をひく (大-小)。

- $(+5)+(-2)=+3$ (大きいのは5→符号+, $5-2=3$)
- $(-5)+(+2)=-3$ (大きいのは5→符号-, $5-2=3$)



$(+5)+(-2)$: +5 から左へ2 → +3

4. 数直線のイメージ

最初の数からスタートし、+なら右へ/-なら左へ、その絶対値だけ動く。着いた先が答え。

5. 0・反対の数

- $a+0=a$ (0をたしても変わらない)
- 反対の数どうしの和は0 : $(+3)+(-3)=0$

6. 計算が楽になる2つの法則

- 交換法則： $a+b=b+a$ （順番を入れかえてよい）
 - 結合法則： $(a+b)+c=a+(b+c)$ （どこから計算してもよい）
- 3つ以上の和では、**+どうし・-どうしをまとめると速い。**

よくあるミス

- 異符号なのに絶対値をたしてしまう：**×** $(+5)+(-2)=+7$ → **○** $+3$ （異符号はひく）
- 符号の選びまちがい：大きいほうの絶対値の符号をつける。
- $(-3)+(-5)$ を -2 にしてしまう → 同符号は絶対値を**たす**ので -8 。

例題

例題1 $(+4)+(+7)$

解答：**+11**

解説：同符号（+どうし）。符号はそのまま+、絶対値を $4+7=11$ 。

例題2 $(-6)+(-2)$

解答：**-8**

解説：同符号（-どうし）。符号は-のまま、絶対値を $6+2=8$ 。

例題3 $(+9)+(-4)$

解答：**+5**

解説：異符号。絶対値が大きいのは9（符号+）。絶対値の差 $9-4=5$ 。

例題4 $(-8)+(+3)$

解答：**-5**

解説：異符号。絶対値が大きいのは8（符号-）。絶対値の差 $8-3=5$ 。

例題5 $(-7)+(+7)$

解答：**0**

解説：反対の数どうしの和は0。絶対値が等しく符号が逆なので打ち消し合う。

例題6 $(+5)+(-9)+(+4)$ <工夫して計算>

解答：**0**

解説：交換・結合法則で+どうしをまとめる。 $(+5)+(+4)+(-9)=(+9)+(-9)=0$ 。